



／ 関内地区 ／ 関内まつり開催



7/25(土)に関内まつりが 開催されました！

関内まつりは、7月最終週に厳島神社の例大祭として開催されている、地域に根差した伝統あるお祭りです。

今年は、3月に開業したBASEGATE横浜関内の敷地内で、神輿の公開組み立てが行われました。トークショーや和太鼓のイベントも開催され、多くの人たちに関内まつりを知っていただく機会となりました。

その後、神輿は馬車道へ運ばれ、関内まつりの準備が進められました。途中、激しい降雨で開始が遅れましたが、無事雨が上がり、神輿と子どもみこしが連なって、威勢よく巡行しました。



BASEGATE横浜関内で
公開組み立て後の神輿



子どもたちが、使わなくなった服や壊れたおもちゃなど、思い出の品物を持ち寄って飾りを作って、子どもみこしを制作しました

子どもみこしにぶらさがっている子もいて重くて担ぐのが大変



関内まつりを主催している 関内地区の町内会長のお話

関内地区連合町内会
新田 東一 会長 (写真右)

弁天通町内会
石井 真紀子 会長 (写真左)

関内まつりの開催でのご苦労や工夫していることは？

関内まつりは、2年前から開催時間を夕方に変更した結果、暑さによる負担が軽減されました。

今年は初めての雨天となりましたが、大きな混乱もなく無事に開催することができました。

関内地区では今後どのような活動を行っていきますか？

来年は中区制100周年、そして馬車道も160周年という節目の年を迎えます。

再開発で街並みは変わっていきますが、関内や馬車道の魅力は何より「人と人とのつながり」です。地域の絆を大切に、多くの人交流できるまちづくりと地域に根差したお祭りを続けていきたいと思っています。



縁日こども広場では、UR海岸通アパート自治会のスタッフと、今年のハマフェスで繋がりができて関内まつりにも参加してくれたボランティアの大学生8人が、かき氷とスーパーボールすくいを担当しました。かき氷は、手動式の機械で丁寧に作られます。かなりの力仕事ですが、運動部出身者が大活躍。

ボランティアの大学生は、「小さなお子さんとふれあえるのが楽しい」と笑顔で話していました。